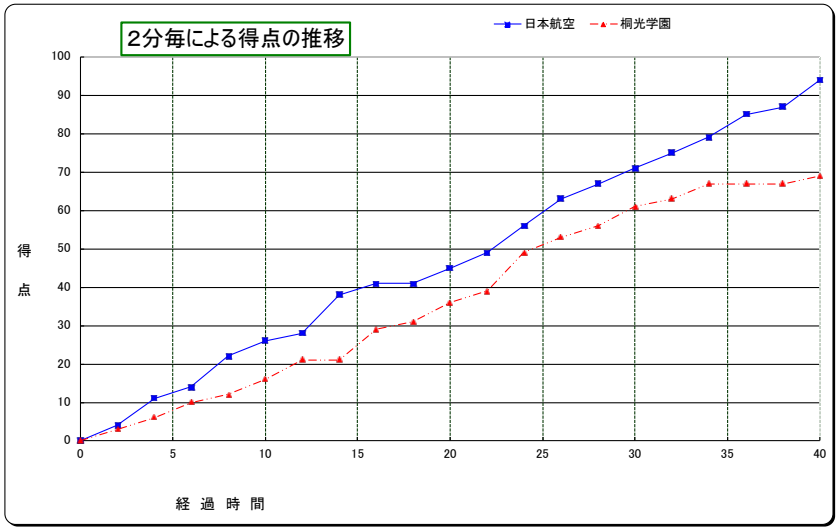
令和5年度 第34回関東高等学校 バスケットボール新人大会

令和6年2月3日（土）
深谷ビッグタートル
2回戦

チームA				チームB
日本航空（山梨）	94	26 1st 16 19 2nd 20 26 3rd 25 23 4th 8	69	桐光学園（神奈川）

番号	氏名	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
0	西田　壮良	0													
8	菅野　幸世	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	宮野　大知	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	萩原　迅	0													
21	平林　凌大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
22	望月　陽生	0													
23	オルワペルミ　ジェラマイア	44	0	6	22	26	0	1	0	8	20	2	0	3	5
25	鈴木　漣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	大道　一歩	15	1	4	6	14	0	1	2	2	9	0	8	0	4
31	本郷　匠ノ秦	0													
34	久保田　楓羽	2	0	1	1	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0
58	中西　哲太	14	4	8	1	1	0	1	3	0	1	0	0	0	0
77	高橋　蓮夢	4	0	1	2	8	0	1	2	0	1	2	4	0	2
78	齊藤　翔大	0													
99	三村　デール　アンソニー	15	0	0	7	10	1	5	4	1	5	1	0	0	1
コーチ	山本　裕														
		94	5	21	39	61	1	9	11	12	37	7	12	3	12
	確率		23.8%		63.9%		11.1%			計	49				

番号	氏名	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
4	古山　幸聖	33	5	11	8	13	2	4	2	1	4	2	2	0	2
5	黒田　捷稀	8	0	6	4	7	0	0	1	2	1	4	2	0	2
6	服部　咲汰	18	4	13	3	5	0	0	1	1	2	1	0	0	0
7	大竹　陸翔	5	0	0	2	7	1	2	4	2	7	1	0	0	2
8	塩田　吉琉海	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	下原　颯騎	3	0	0	1	2	1	3	1	0	1	0	1	0	1
10	高野　斡太	0													
11	吉岡　麟太郎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	鈴木　辰季	2	0	0	1	3	0	0	1	2	4	0	0	0	1
13	大澤　勝太郎	0													
14	辻野　樹大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	船橋　善	0	0	1	0	2	0	0	2	0	5	0	0	0	3
16	田中　温大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
17	大渕　晃輔	0													
18	九十田　晃海	0	0	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1
コーチ	髙橋　正幸														
		69	9	33	19	40	4	9	13	8	27	8	5	0	12
	確率		27.3%		47.5%		44.4%			計	35				



戦評

第1Q、日本航空、桐光学園互いにハーフコートマンツーマンでスタート。桐光学園は＃4の速攻で先制する。日本航空は＃23のローポストオフェンス、ハイポストからドライブ＃58の3Pで得点を重ねる。外角シュートで桐光学園は攻めるが、日本航空＃23のディフェンスリバウンドが目立ちセカンドチャンスを活かせない。日本航空は＃30ミドルシュート＃23ゴール下で加点。桐光学園は＃4ミドルシュート＃9バスケットカウント＃6の3Pで1点差まで縮める。5分過ぎ、日本航空は2－3ゾーンとマンツーマンで相手を翻弄し、＃23の5連続得点で高さを活かす。桐光学園も＃12＃5が3Pを決めるが、終了間際日本航空＃23のアグレッシブなドライブが決まり、26－16日本航空リードで第1Q終了。

第2Q、日本航空2－3ゾーン、桐光学園ハーフコートマンツーマン。桐光学園は＃4の3P、＃6シュートフェイクからバックシュートに対し、日本航空は＃23の連続得点で一進一退の展開が2分間続く。ここで日本航空が＃30の連続ミドルシュート、＃99の速攻、＃77のインターセプトで一気に突き放しにかかる。38－21となった所で桐光学園タイムアウト。タイムアウト後、桐光学園に流れが傾く。＃6スティール＃5ミドルシュート＃7フリースロー＃4連続3Pなどで、6点差まで詰め寄る。流れは桐光学園に傾き始めたが、日本航空＃58＃23のシュートで意地を見せ45－36日本航空リードで前半終了。

第3Q、日本航空＃23のダンクシュートが炸裂。桐光学園はゾーンアタックで＃6＃4＃6の3連続3Pで喰らいつく。ここで日本航空＃30の運動量が増し、ゲームのテンポが上がる。日本航空は＃30＃23＃99＃58が得点し、桐光学園は＃4が得点を量産し、＃7の連続得点、＃6のシュートなどで、取ったら取り返す展開が8分間続く。ここで日本航空＃23の強烈なダンクシュートやリバウンドが冴える。また＃34の速攻、＃30のダックインから相手を引き付けてからのネックパスで場内を沸かせる。71－61日本航空リードで第3Q終了。

第4Q、桐光学園は激しいディフェンスから相手のミスを誘うが、日本航空は＃30を起点に攻撃のリズムが絡み合う。＃23のダンクシュートで完全に日本航空がゲームの主導権を握った。桐光学園はシュートの精度が落ち始め苦しい時間帯が続く。日本航空が多彩なオフェンスとスピードで94－69で勝利した。

文責：齋藤　健二

Ref	赤星　隆幸

1st U	大和田　雅人

2nd U	村上　翔

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
A	0	4	11	14	22	26	28	38	41	41	45	49	56	63	67	71	75	79	85	87	94
B	0	3	6	10	12	16	21	21	29	31	36	39	49	53	56	61	63	67	67	67	69